

令和6年度 陽光小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】

豊かな心と健やかな体を持ち、創造的に考え、自らの向上とより良い社会の発展を目指して、たくましく生きる児童の育成

【具体目標】(めざす児童像)

- 健康でねばり強い子 ○ 自ら考え行動できる子
- 仲良く思いやりのある子 ○ きまりを守り責任を果たす子

【合言葉】

『よく学び やさしく 元気な 太陽の子』

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

【目指す学校像】

- 思いやりと温かさに満ち、人権が尊重された居がいのある学校
- 学び合い、高め合い、ひびき合う、学習環境が充実した学校
- 家庭や地域と連携して、共に活力ある子どもたちを育む学校

【目指す教職員像】

- 人権を尊重し、責任感と使命感をもった、粘り強い教職員
- 専門的知識と技術向上のため、同僚と協調し、学び合い、高め合う教職員
- 教育公務員として厳正に勤務し、保護者や地域に信頼される教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 子どもとのふれあいを大切にしながら、一人一人のもつよさや可能性を引き出す。
- (2) 分かる授業、楽しい授業の改善に取り組み、確かな学力を身に付けさせる。
- (3) 子どもたちが健やかに成長できる健康で安全な学校環境を整え、豊かな心を育成する。
- (4) 教職員自ら資質の向上に励むとともに、勤務時間の意識化を通して校務の効率化を一層推進する。
- (5) ○子ども・保護者・地域との信頼関係と協力関係を基盤とする明るく開かれた学校をつくる。

【陽南地域学校園教育ビジョン】

主体的に活動できる子どもを育む小中一貫教育

研究テーマ: 生きる力の基本となる知識・技能とコミュニケーション能力の育成

4 教育課程編成の方針

- ・ 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領や県・市教育委員会の規則・要領・施策・基本方針、さらに地域学校園教育ビジョンに基づき編成する。
- ・ 教科横断的な視点で学校や地域の資源(教材、施設、人材)と各教科等の関連付けを図るなど、カリキュラム・マネジメントを推進し、特色ある学校づくりに必要な資質・能力が育めるようにする。
- ・ 本校教育目標を実現するため、地域や学校の実態、児童の心身の発達段階と特性を十分に考慮するとともに、各教科等及び学年間の関連付けを図りながら、系統的・発展的な指導となるよう留意する。
- ・ 令和5年度学校評価のPDCAに基づいた改善案に、働き方改革とコロナ・リカバリープランの観点を盛り込み、行事や校務の見直しと改善をさらに進める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- 教職員がいきいきと勤務できる環境づくりと、地域とともにある学校づくり
～業務の効率化の推進と家庭・地域とのつながり強化を目指して～

(2) 学習指導

- 主体的・対話的で深い学びに向かう児童の育成
～それぞれの教科等の特質を生かした指導を通して～

(3) 児童生徒指導

- ・思いやりを基盤とし、自ら考え正しく判断し行動できる児童の育成
～いじめ根絶に向けた取組の充実及び自己決定の場を与える指導を通して～

(4) 健康(保健安全・食育)・体力

- ・心身ともに健康で安全な生活を送ろうとする児童の育成
～「元気アップ教育」の推進を通して～

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童90%以上	① 「 <u>陽光スタンダード</u> 」や「 <u>話し方・聞き方の約束</u> 」等を教職員と児童で共有し, 話し方・聞き方・ノートのまとめ方など基本的な学習態度・技能の育成に努める。 ② 自分の考えを積極的に伝える表現力を高めるために, 1人1台端末を活用して全員が意見を表出できるようにしたり, 全ての教科で意図的に話し合う場面や発表する場面を設定したりする。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 93.7%で, 指標を上回っている。 【次年度の方針】 次年度も引き続き, 全ての教科で先生の話や友達の意見をよく聞き, 自分の考えをもってはっきりと話すことができるよう, 「陽光スタンダード」や教室掲示をもとに基本的な学習態度を年度当初に全職員で確認し, 指導を継続する。
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童90%以上	① 教育活動全体を通して, 児童の自主性を尊重しながら協力して活動する場を意図的に設ける。 ② 道徳科の授業や人権に配慮した指導を行うことで, 相手の気持ちを考えた行動がとれるようにする。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 90.3%で, 指標を上回っている。 【次年度の方針】 道徳科の授業をより充実させていく。
	A3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童90%以上	① 教育活動全体を通して, それぞれの児童が, 自分の決めた目標に向かって努力したり, それを振り返ったりする場を意図的に設け, その姿を称賛していく。 ② 道徳科の授業において, 目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに, 実践への意欲を高める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 92.0%で, 指標を上回っている。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続するとともに保護者への啓発を更に積極的に行う。キャリアパスポートを有効に活用する。学期ごとのめあてを立て掲示することでその都度確認し, 中間の振り返りを行えるようにする。
1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は, 健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒児童90%以上 ⇒保護者90%以上	① 体育の授業や休み時間などを通して, 体力の維持・向上を図る。 ② 学校給食や家庭科等の教科, 「お弁当の日」を通して, 食に関する指導の充実を図る。 ③ 様々な感染症対策への理解促進及びせっけんを使った手洗い, うがい, 換気等の習慣化に努める。 ④ 交通安全教室や避難訓練等を計画的に実施し, 自らの命を守る判断力と行動力が身に付けられるようにする。 ⑤ 宮っ子ダイアリーの「元気っ子生活習慣チェック」を月1回行うことで意識化を図るとともに, 学校全体の結果をさくら連絡網及び学校ホームページにアップして周知する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 95.3%で, 指標を上回っているが, 保護者の肯定的回答率は87.5%で, 指標を下回っている。 【次年度の方針】 現在の取組を継続することを中心に, 登校指導や一斉下校の際に交通安全に関する具体例の話をしたり, 校内の歩行について教職員からだけではなく委員会活動と関連して児童主体の取組をしたりするなど, 健康や安全について更なる指導や啓蒙を図る。

1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ⇒児童90%以上 ⇒教職員90%以上	① 様々な活動に、一人一人が目標をもって取り組むことができるようにするとともに、達成感を味わえるように支援したり、称賛の場や振り返りの場を積極的に設けたりするなどの取組の中で、キャリアパスポートを有効に活用する。 ② 学級活動や帰りの会などにおいて、児童が互いのよさを認め合う場面や教職員が児童を称賛する場面を計画的・定期的に取り入れる。 ③ 各種たより等に児童の活躍を紹介し、家庭においても称賛の機会が得られるようにする。 ④ 道徳の内容項目「個性の伸長」を丁寧に指導する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 92.0%, 保護者の肯定的回答率 91.7%で、どちらも指標を上回っている。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続し、児童一人一人を大切にしながら、それぞれの活躍を認め成功体験を増やせるように支援していく。全教職員が、児童を称賛する場面を計画的・定期的に取り入れる。学級活動や縦割り班活動の中で児童が互いに認め合える場を取り入れる。
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒児童90%以上	① 外国語科・外国語活動の授業に加え、ALTと児童が交流できる場面をつくり、給食準備や共遊、清掃や下校時などの様々な場面で外国語に触れる機会を確保する。 ② 外国語活動と外国語科の関連を図りながら授業を行っていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 86.3%で、指標を下回っている。 【次年度の方針】 外国語科(外国語活動)の授業は、ALTとの打ち合わせを通して授業力向上を図ってきた。児童とALTとの関わりについては、授業だけではなく、昼休みや業間の共遊、給食での会食などを通して児童とのコミュニケーションが深まってきたので、次年度も継続していく。ALTによる絵本読み聞かせを行い、英語に親しむ機会を増やす。
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒児童85%以上	① 高学年は総合的な学習の時間を行う「宇都宮学」を中心に、体験活動や調べ学習を通して、市民として、宇都宮市に愛着と誇りをもてるように指導していく。 ② 中学年は、社会科での学習において、社会科と「宇都宮学」を関連付けた授業を行うとともに、道徳の地域教材を活用して宇都宮の良さを伝えていく。 ③ 低学年は、生活科の活動での地域とのかかわりや、道徳の地域教材を活用して、地域や宇都宮の良さを伝えていく。 ④ 昼の校内放送や読み聞かせ、給食の宮っ子ランチなどを通して宇都宮のことを紹介するなど、児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付くことができるようにしていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 93.3%で、指標を上回っている。 【次年度の方針】 次年度も宇都宮学の学習活動を充実させ、郷土宇都宮に誇りをもたせるとともに、低・中学年でも、社会や道徳の地域教材を活用しながら、よさを伝えていく。また、全体的な取組としては、放送委員会の放送や読み聞かせ、給食の宮っ子ランチを通して宇都宮のよさを紹介するなどの取組を次年度も継続していく。
2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒児童90%以上	① GIGA 教育年間指導計画をさらに充実させ、授業で効果的に活用していくとともに、1人1台端末の活用や「プログラミング教育」を通して、ICT機器を児童一人一人が家庭においても扱えるようにしていく。 ② 図書については、各教科年間指導計画に基づき、資料になる図書を早めに準備し、積極的に各教科等の調べ学習などに活用できるようにするとともに1人1台端末と図書資料を併用し、図書館司書がT2で授業参加する機会を増やしていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 89.7%で、指標を下回っている。 【次年度の方針】 今年度に引き続き、1人1台端末を使った家庭学習におけるAIドリルの活用や各種アンケートの実施、各種便りの配付などを行い、児童の利用の機会も増やしていく。また、調べ学習等でも、タブレットと図書資料を併用し、図書館司書がT2で授業参加する機会を増やしていく。

2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童90%以上	① 各教科等における学習内容に応じた環境教育や防災教育を意図的に実施する。 ② 日常的に電気や水の無駄遣いをなくすよう働きかけたり、委員会活動におけるアルミ缶回収、ごみの分別の仕方や意味について、機会を捉えて伝えたりしていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 95.0%で、指標を上回っている。 【次年度の方針】 学級に SDGs に関する掲示物を用意し、授業などでどのテーマと関連しているかを適宜確かめたり、学級に SDGsに関する本を置いたりするなどの取組を行って、意識付けをする。
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員90%以上	① 特別支援コーディネーターや児童指導主任を中心に、全教職員で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② かがやきルーム利用児童の状況を複数の教職員で検討し、有効に運用できるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は100%で、指標を上回っている。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続するとともに、教職員全体で定期的な児童の情報交換から支援に役立てていく。必要に応じてケース会議を開き一人一人のニーズに応じた支援を組織的に検討していく。
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒児童90%以上 ⇒保護者80%以上 ⇒地域90%以上 A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒児童90%以上	① 全教職員が「いじめが許されない行為である」という共通認識のもと、日常的に指導していく。 ② 日常会話や教育相談週間等を通して、児童との信頼関係を築いていく。 ③ 随時、児童が相談できる「そうだんポスト」を有効に活用していく。 ④ 児童会主催のいじめゼロ集会やいじめ防止の標語やポスター作成等の取組を通して、児童自身がいじめについて考える機会を設ける。 ⑤ 学校でのいじめの未然防止に向けた取組を学校ホームページや各種たより等で家庭や地域に周知する。 ① 一人一人が活躍できる場を意図的に設定し、 <u>友達のよさを認め合い児童の自己肯定感を高められるようにしていく。</u> ② <u>「できた」「分かった」が繰り返されるなど、授業が児童にとって楽しい時間となるよう努める。</u> ③ 教育相談やQ-U等の結果を活用し、不適応傾向のある児童への支援にあたる。 ④ 遅刻や欠席が多い児童について、早期に情報を共有し、組織的に対応できるようにする。 ⑤ 教職員が日常的に児童一人一人に声をかけることができるようにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 97.7%で、指標を上回っているが、保護者の肯定的回答率は 70.5%、地域住民の肯定的回答率は 84.6%で、どちらも指標を下回っている。 【次年度の方針】 今年度に引き続き学校ホームページや各種便りで取組を伝えていくとともに、年度当初の学級懇談の時間を使って学校の指導方針を伝え、保護者と共通認識のもと指導していくようにする。 授業参観などの時に、いじめゼロ標語を各クラスに掲示することを、教職員で共通理解をし、保護者に周知していく。 【達成状況】 児童の肯定的回答率は 97.0%で、指標を上回っている。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実 3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいさきとした雰囲気である。 【数値指標】 ⇒児童90%以上 ⇒保護者90%以上	① Q-Uの結果を参考に、居がいのある学級づくりを目指し、予防的・計画的な学級経営を行う。 ② 係活動や当番活動の充実を図り、学級における役割を一人一人に設定し、自信と責任をもって取り組むことができるよう支援する。 ③ 友だちタイムや児童集会、清掃等縦割りでの活動を通して、班のみんなの意見を取り入れた活動となるよう支援する。 ④ 学級での日頃の取組を学級懇談会等で周知する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 97.3%で、指標を上回っているが、保護者の肯定的回答率 86.5%で、指標を下回っている。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していく。

4- (1) 教職員の資 質・能力の向 上	A14 教職員は、分かる授業や 児童にきめ細かな指導を 行い、学力向上を図って いる。 【数値指標】 ⇒児童90%以上 ⇒保護者90%以上	① <u>基礎・基本の徹底を図るため、学年 や教科に応じて少人数指導や習熟度 別学習等を効果的に取り入れた</u> り、多 様な児童の能力に対応するため、か がやきルームとの連携を図ったりと、き め細かな指導に努める。 ② <u>学習への興味・関心を高めるために タブレット等のICT機器を活用し教材 を工夫</u> したり、体験活動を取り入れた りしていく。 ③ 教員の指導力向上に向けた校内研 修の充実を図ったり、児童の様子から 指導方法等を検証したりして、授業改 善に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 97.7%で、指標 を上回っているが、保護者の肯定的回答 率 79.6%で、指標を下回っている。 【次年度の方針】 担任同士やかがやきルーム担当、習熟 度別学習担当者と連携して指導にあたる。 研究授業や一人一授業を通して、互いに 指導法を学び合うようにする。また、分かる 授業を行うために実物投影機や大型テレ ビ、デジタル教材、1人1台端末を効果的 に活用していく。朝の学習の時間を活用 し、ミニプリントなどに取り組みさせることで、 知識・技能の定着を図る。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力して 業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員90%以上	① 学校の諸課題への対応や、学校行 事の準備・運営等に、教職員が相互 に助け合いながら丸となって取り組 むよう努める。 ② 困難を感じる業務について気軽に 相談し、助け合える雰囲気大切に し合う。 ③ 教職員間の「報告・連絡・相談」、「あ いさつ」、「顔を合わせたらひと声」等 の取組を推進する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は100%で、指標 を上回っている。 【次年度の方針】 職員間の良好な関係を維持しながら、 今年度の取組を継続していく。
4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、業 務の効率化に取り組んで いる。 【数値指標】 ⇒教職員80%以上	① 教職員一人一人が、勤務時間を意 識し、業務の効率的な実施や計画的 な処理に努める。 ② リフレッシュ退勤日を月に2回以上 設定し、個人の定時退勤日を見える 化する等の方策をとり、勤務時間を意 識した働き方を進める。 ③ 教職員の負担軽減に向け、機動班 を活用した職員作業の削減や、ミライ ムアンケート機能の有効活用等に努 める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 87.5%で、指 標を上回っている。 【次年度の方針】 勤務時間を意識して勤務するためにも、 定時退勤日の見える化を継続していく。ま た、会議等の開始時刻や終了時刻もしつ かりと守れるように、見通しをもって進めら れるようにする。
5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組を 行っている。 【数値指標】 ⇒児童80%以上	① <u>「あいさつ運動」、「宮っ子チャレンジ ウィーク(中学生の体験活動)」など、 地域学校園における活動の充実</u> に努 める。 ② <u>給食における地域学校園統一の献 立やおにぎりの日を実施する。</u>	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 95.3%で、指標 を上回っている。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していくとともに、 小中で実施している交流について、児童 や保護者に分かりやすく伝える機会を設け ていく。
5- (2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進 5- (3) 地域と連携・ 協働した学 校づくりの推 進	A18 学校は、家庭・地域・企 業等と連携・協力して、教 育活動や学校運営の充実 を図っている。 【数値指標】 ⇒児童90%以上 ⇒地域90%以上	① 「魅力ある学校づくり地域協議会」 「頑張る学校プロジェクト」等と連携し た活動を充実する。 ② 地域ボランティアを招いた活動やオ ンラインによる企業等の出前授業、地 域へ出向いての体験学習など学年の 発達段階に応じた学習を、教科や学 年のバランスに配慮しながら実施す る。 ③ 家庭・地域の協力を得ることで、充 実した活動ができていることを、折に 触れ、児童に伝える。また、活動後に 児童の言葉で感謝の気持ちを伝える ことができるように促していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 96.0%、地域住 民の肯定的回答率 100%で、どちらも指標 を上回っている。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続することに加え、オ ンラインの出前授業も積極的に活用し ていく。児童には、家庭や地域の協力があ ることを伝え、感謝の気持ちを表現でき るように指導していく。

6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒地域90%以上	① 定期的に行う安全点検を中心に、校内の施設設備の安全な環境づくりに努める。 ② 清掃指導を行ったり、校庭の除草などの奉仕作業を行ったりするなど、校内の環境美化に努める。 ③ 学校を利用している団体との連携も密にし、誰もが使いやすい環境づくりに努める。	【達成状況】 地域住民の肯定的回答率は 93.3%で、指標を上回っている。 【次年度の方針】 今年度同様に PTA の陽光サポート部をはじめ保護者の協力を得て、環境づくりに励む。また、通常の児童が行う清掃について、場所による人数の再検討をし、よりよい環境美化に努める。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備ができています。 【数値指標】 ⇒教職員90%以上	① タイピングなどの基本的な技能を身に付けられるようにする。 ② タブレットケースや保護フィルムなどを使って丁寧に扱うように指導する。 ③ 「陽光小学校タブレットのルール」を基に、情報モラルについても全校で共有していく。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は100%で、指標を上回っている。 【次年度の方針】 1人1台端末の扱いにも慣れ、家庭でもAIドリルなどを活用する機会が増えてきたので、引き続き活用を進めていく。一方で1人1台端末活用のルールの確認などの情報モラルについての指導もしていく。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に合ったあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒児童90%以上 ⇒保護者90%以上 ⇒地域90%以上	① <u>小中合同のあいさつ運動を年に2回実施する。</u> また学級ごとに年に1回ずつあいさつ運動を実施する。 ② スクールガード(見守り隊)や地域協議会委員等に連携を依頼し、地域ぐるみであいさつを推進する。 ③ 登下校時や来校者へのあいさつの指導を通して、学校関係者へのあいさつの充実を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 93.0%、地域住民の肯定的回答率 100%で、どちらも指標を上回っているが、保護者の肯定的回答率は 81.5%で、指標を下回っている。 【次年度の方針】 教職員から率先して挨拶をしていく。陽光スタンダードにある挨拶のルール(先言後礼)や挨拶の指導を各学級で徹底していく。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 ⇒児童90%以上 ⇒保護者90%以上 ⇒地域90%以上	① 毎月の生活目標を、学級担任が朝の会等で学年に応じて伝えたり、目標を全員で確認したりするとともに、帰りの会で確実に振り返りを行う。 ② 全学年だよりに生活目標を載せて保護者に周知したり、生活目標を掲示する場所を工夫して児童の意識を高めたりして、家庭や地域と連携を図りながら指導していく。 ③ 生活と学習のきまりをまとめた「陽光スタンダード」を活用し、自転車の乗り方や公共のマナーを含めた指導と振り返りを繰り返し行っていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 93.0%で、指標を上回っているが、保護者の肯定的回答率は 83.3%、地域住民の肯定的回答率は 86.7%で、どちらも指標を下回っている。 【次年度の方針】 生活目標の周知の方法を委員会活動の一つにするなど、児童主体に考え発信する場を取り入れることで児童の意識を高めていく。 取組の様子を保護者に伝える方法を工夫して発信していき周知を図っていく。
	B3 児童生徒は、コミュニケーションをとることで生活をより良くしようとしている。 【数値指標】 ⇒児童90%以上 ⇒保護者90%以上	① 学校行事や縦割り班活動のほか、学級活動や生活科、体育等における異学年交流の場で、上学年が下学年の面倒を見る機会をつくるとともに、全員で楽しく過ごせるように指導していく。 ② 学級活動における話し合いを通して、児童が自主的に自治的な活動を進める機会を十分に確保する。 ③ 異学年同士の活動の場では、できるだけ相手の名前を呼んで活動するように指導するなど、相手意識をもって活動できるように支援する。 ④ オープンスクールや授業参観で、児童同士の関わりを保護者に見せる機会を設ける。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 96.3%、保護者の肯定的回答率は 95.3%で、どちらも指標を上回っている。 【次年度の方針】 オープンスクールや授業参観の際に、児童同士の関わりが見られる機会を設定し、児童同士の関わりを見てもらえるようにする。

	B4 児童生徒は、宿題や自主学習、読書など家庭学習をしている。 【数値指標】 ⇒児童90%以上 ⇒保護者80%以上	① 低学年30分以上、中学年40分以上、高学年60分以上の家庭での学習時間を確保し、家庭学習の定着を図る。 ② 家庭学習に関する参考資料(「 <u>家庭学習のヒント集～陽南地域学校園版～</u> 」を配付したり、懇談会や全学年だより等で家庭学習の取組方について説明したりすることで、保護者と連携を図った支援ができるようにする。 ③ 家庭での学習時間や内容を学年で用意した記録用紙などに、毎日記録することで、家庭学習の様子を蓄積し、学習支援に活かしていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 90.3%, 保護者の肯定的回答率は 82.4%で、どちらも指標を上回っている。 【次年度の方針】 家庭学習に関する資料を配付したり、懇談会や学年だより等で家庭学習の取組方について説明したりすることで、保護者と連携を図った支援ができるようにする。
--	--	---	--

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・各項目の指標に対する達成状況は良好であり、家庭や地域の皆様のご理解・ご協力のもと、概ね充実した学校教育が展開されている。
- ・児童の各項目に対する肯定的回答率は、「A6 英語を使ってコミュニケーション」「A8 児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用」以外の項目全てにおいて 90%を超えている状況であり、子供たちの多くが安心して充実感のある学校生活を送ることができている。
- ・「B2 きまりやマナーを守って、生活」は、昨年度は地域住民の肯定的回答率が低く課題と捉え、教職員が取組を強化してきた。地域住民の肯定的回答率が 7.8 ポイント増加したことは成果と捉えている。
- 保護者・地域住民の肯定的回答率が低く指標を超えていない項目がいくつかある。特に「A11 いじめが許されない行為」, 「A14 分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導」については、次年度の課題と捉え、取組を拡充していく予定である。
- 「B1 時と場に応じたあいさつ」「B2 きまりやマナーを守って、生活」については、教職員の肯定的回答率が低く、引き続きの課題として全職員で取り組んでいく必要がある。
- ・「A16 業務の効率化」については、業務改善の具体策を出し合い、全職員で引き続き検討・実践をしていく。

7 学校関係者評価

- ・概ね指標を達成しており、良好な結果である。
- ・「B1 時と場に応じたあいさつ」「B2 きまりやマナーを守って、生活」の教職員の評価が気になる。この点に教職員は指導に苦勞しているのではないかと考える。
- ・「A11 いじめが許されない行為」の肯定的回答率を見ると、児童生徒、教職員、保護者及び地域住民の結果に差がある。教職員は多忙の中で努力していると思うが、「働き方改革」を進めて児童をよく見てほしい。
- ・全体的に保護者の評価が低い傾向がある。特に、「A3 目標に向かってあきらめずに、粘り強く」「A7 宇都宮の良さ」「A11 いじめが許されない行為」「A14 分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導」「B4 家庭学習をしている」が厳しいと考える。学校側が今まで以上に取組の様子を分かりやすく伝えていくことが大切である。
- ・登下校時にスクールガードへの児童からのあいさつが少ない。
- ・「A9 持続可能な社会」の教職員の評価が昨年度より肯定的回答率が 24.5 ポイント下がった理由を検討し次年度に生かしていくとよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・全体としては概ね良好な状況であるので、今年度の取組を継続・発展させながら、学校と保護者、地域が協力・連携を図り、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。
- ・課題解決に向けた取組を強化するとともに、常に向上・改善を目指し努力していく。
- ・肯定的回答率が低い項目については、次年度の重点課題として具体的な取組の改善が図れるようにする。
- 「B1 時と場に応じたあいさつ」「B2 きまりやマナーを守って、生活」など、家庭との連携が不可欠な取組については、継続的に家庭への啓発と協力依頼を行うことにより、よりよい連携体制が構築できるように努める。また、陽南地域学校園で相談して作成したマスコットキャラクターやのぼり旗などをあいさつ運動などで活用し、あいさつを推進していく。
- ・きまりやマナーについては、学校内だけではなく、校外のマナーもしっかり指導していく。
- ・オープンスクールや授業参観の機会を生かし、保護者・地域住民が学校での児童の様子や取組を知ることができるよう工夫していく。
- ・いじめの未然防止に向けた取組をはじめ、学校で実施している様々な取組の様子とそのねらいを、保護者や地域の方が来校する機会に伝えたり、学校ホームページや各種たより等で周知したりすることで、保護者や地域住民へも取組が伝わるようにしていく。